

義務教育学校の設置に関する検討委員会だより ②

東国分中学校ブロック 義務教育学校の設置に関する検討委員会

第2回検討委員会の概要をお知らせいたします。

- 1 日 時 令和2年2月27日(木) 17時00分～18時30分
- 2 会 場 市川市立東国分中学校
- 3 構 成 ・委員長：大学教授
(19名) ・委員：各学校(東国分中・曾谷小・稲越小)の学校運営協議会代表
- 4 内 容 ・報告及び協議
・主に義務教育学校設置に係る課題及び今後の協議の進め方について共通理解をしました。
- 5 報告の概要

①児童生徒数推計について

・推計は、年齢別人口の加齢に伴って生ずる年々の変化及び入学者割合を計算して算出しています。

児童生徒数・学級数推計 ※令和1年度は実数(5月1日現在)

		※入学者割合はH29～H31の平均										※学級数は普通学級数					
学校名	入学者割合	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	
曾谷小学校	103.7%	児童数	421	407	388	383	346	318	316	306	301	273	277	271	264	257	253
		学級数	14	13	13	13	12	12	12	11	12	12	12	12	12	12	12
稲越小学校	92.4%	児童数	209	214	226	244	244	242	230	227	225	216	212	211	204	197	196
		学級数	8	8	9	10	10	10	10	9	10	9	8	7	6	6	6
東国分中学校	65.1%	生徒数	324	310	304	297	299	306	305	281	269	260	245	228	213	207	203
		学級数	11	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	8	7	6	6

②施設分離型による義務教育学校運営の事例について

・施設分離型による義務教育学校の多くは、5年生までが小学校校舎、6年生からが中学校校舎で学ぶ5-4制を取り入れ、小中一貫教育を進めています。

学校名	特徴
茨城県 笠間市立みなみ学園義務教育学校	○5-4制 ・1～5年生は小学校校舎 ・6～9年生は中学校校舎 ※校舎間約800m ○教科担任制 ・小4から一部教科担任制(音楽、図工等) ・小6から教科担任制 ○特例教科 ・小1から英語や郷土学習を実施
大阪府 東大阪市立義務教育学校 くすは縄手南校 東大阪市立義務教育学校 池島学園	○6-3制 ・1～6年は小学校校舎 ・7～9年は中学校校舎 ○教科担任制 ・6年生から一部教科担任制(小学校校舎内で実施) ○独自の教科 ・「夢TRY科」を実施(防災、金融、社会保障など)
兵庫県 姫路市立四郷学院	○5-4制 ・1～5年生は小学校校舎 ・6～9年生は中学校校舎 ※校舎間約100m
鳥取県 鳥取市立鹿野学園	○5-4制 ・1～5年生は小学校校舎 ・6～9年生は中学校校舎 ○独自の教科 ・「表驚科」を実施(地域にある演劇、伝統芸能、工芸など)

③小中一貫教育とコミュニティ・スクールについて

- コミュニティ・スクールと小中一貫教育は極めて親和性が高い取組です。コミュニティ・スクールは、学校と地域をつなぐ仕組みですし、小中一貫教育は、小・中学校の児童生徒間、教職員間をつなぐ取組であり、いずれも児童生徒に多様な者との関わりを持たせたいという願いが共通にあると言えます。また、小中一貫教育は地域の支援を小・中学校で断絶させない仕掛けとも言えます。
- 小学校の教員はずっと小学校の教員、中学校の教員はずっと中学校の教員を務めるケースがほとんどですが、小学生の保護者はいずれ中学生の保護者となります。もとより地域住民は小学校だけ、中学校だけを見ていたわけではありません。その意味では、中学校区を単位として学校教育を充実させる取組は当然の帰結であると言えます。中学校区を単位として小・中学校がネットワークを作り、教職員が互いに支援し合う体制を作ることによって、地域住民や保護者が学校を信頼し、課題を共有し、学校を支援する活動が充実します。

【小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引(文部科学省)】

④系統性・連続性を重視した学習

・塩浜学園では9年間を見通した年間指導計画を作成して指導に当たっています。この取組によって、全

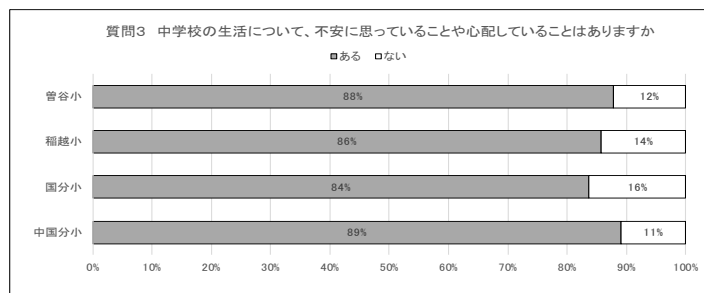
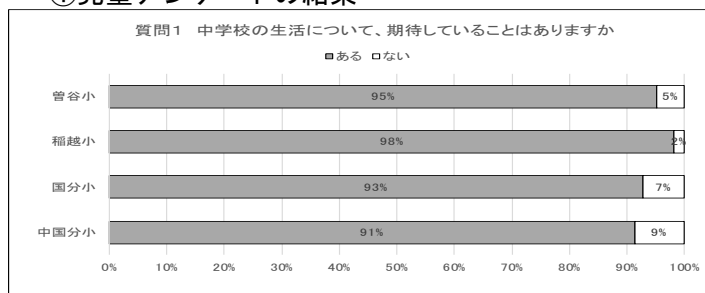
ての教員が、「自分の学年の指導事項がどのように上の学校・学年に結びついているのか」「自分の学校・学年の学習を行う上で、どのような基礎知識を下の学校・学年で習得しているのか」といったことを把握し、つまづきを速やかに解消する指導や既習事項を意識した指導の充実につながっています。また、小中学校双方の教員が授業を参観し、指導方法の改善に向けた話し合いを行っています。



6 協 議

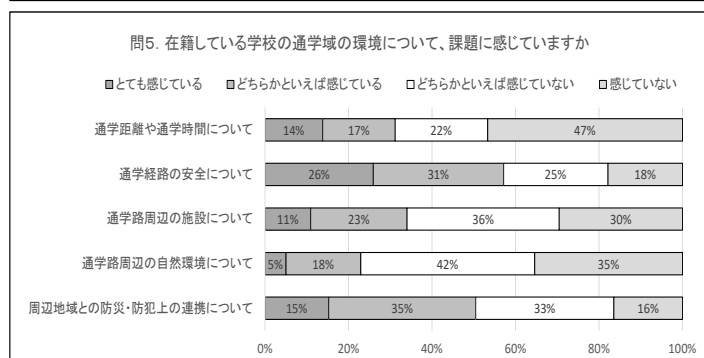
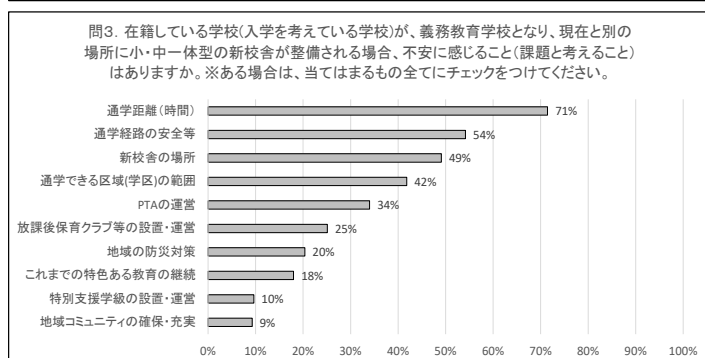
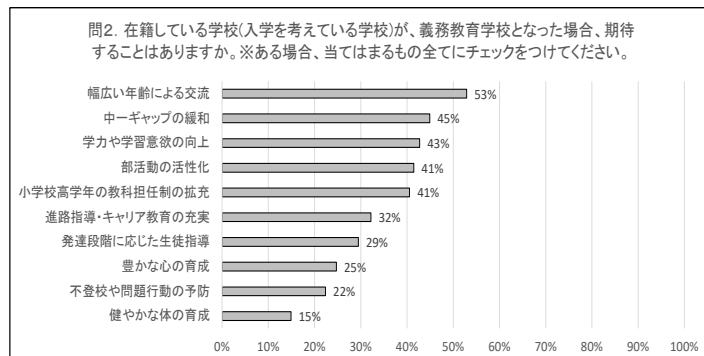
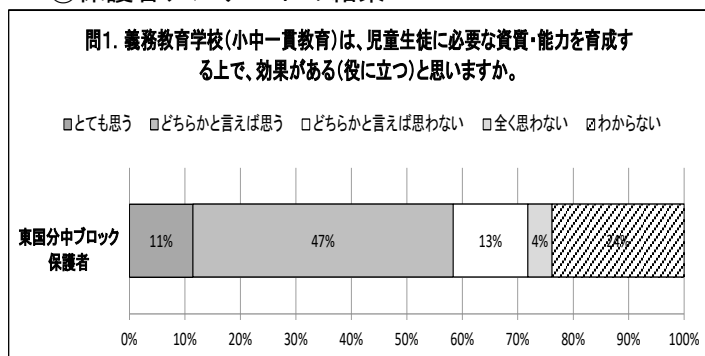
(1) 提案の概要 (※アンケート結果の詳細は、ホームページに掲載しています)

①児童アンケートの結果



- ・この結果は、小中一貫教育を進める上での中学校段階での指導の工夫や、指導の重点の設定に生かしてまいります。
- ・どの学校でも、部活動や友達、行事のことなどに期待をしている児童が多く、小学校と違う経験や新しい友達との出会いに期待をしていることが分かります。
- ・不安や心配については、勉強や友達のこと、上級生や部活動、進路などに多くの児童が不安を持っており、中学校進学時には、学習指導や生徒指導を丁寧に行わなければいけないことが分かります。

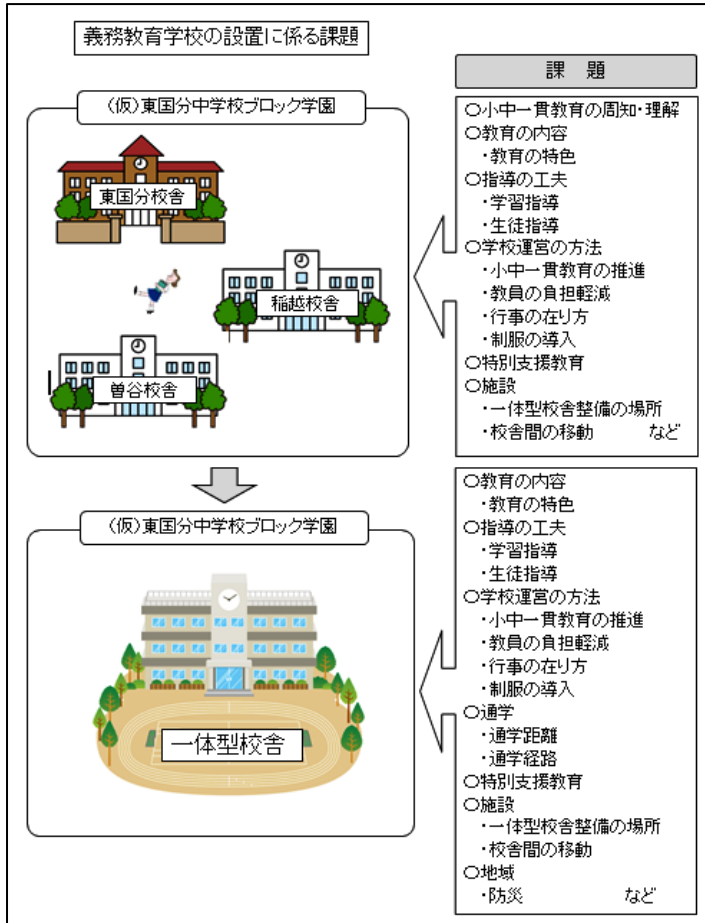
②保護者アンケートの結果



- ・「義務教育学校(小中一貫教育)は、児童生徒に必要な資質能力を育成する上で、効果があると思いますか」という設問については、肯定的な回答が約6割、否定的な回答が約2割、「分からない」が2割強となっています。これは、塩浜学園の小中一貫校開校前の結果とほぼ同じとなっています。

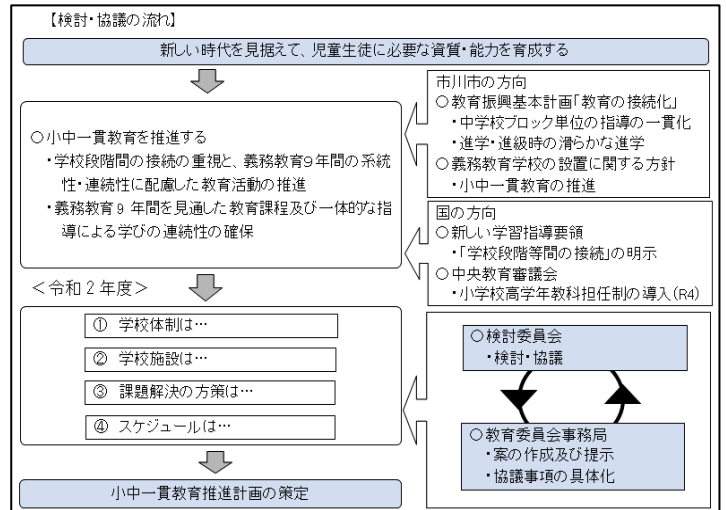
- ・義務教育学校へ期待することについては、「幅広い年齢による交流」「中一ギャップの緩和」「学力や学習意欲の向上」「小学校高学年の教科担任制の拡充」「部活動の活性化」が多く、学校運営の重点化を図る上で、この結果を生かしていく事が大切だと考えます。
- ・義務教育学校となり一体型校舎を整備する場合には、通学距離や時間、通学経路の安全、新校舎の場所に多くの保護者が不安や課題を感じていることが分かります。
- ・在籍している学校の通学区域の環境については、どの学校でも、通学経路の安全性と周辺地域との防犯・防災上の連携に課題を感じている方が多く、東国分中学校ブロック全体の課題であると考えています。
- ・保護者アンケートの自由記述は、「アンケート結果の詳細」に掲載しています。

③義務教育学校の設置に係る課題



④今後の協議の進め方について

- 検討・協議は、丁寧に、相応の時間をかけて進めます。
- 中学校ブロックの小中一貫教育推進計画を作成します。
- 計画作成の協議の中で、以下の点を明らかにします。
 - ①小中一貫教育推進の学校体制の在り方
 - ②学校体制の在り方を具現化し、実効性を高める学校施設の在り方
 - ③学校体制及び学校施設の在り方を具現化する上で生じる課題の解決策
 - ④学校体制及び学校施設の在り方を具現化するためのスケジュール
- 推進計画に沿って、小中一貫教育の推進(義務教育学校の設置等)に向けた具体的な取組を進めます。



③義務教育学校の設置に係る課題

- ・義務教育学校設置については、それぞれの段階で「教育の内容」「指導の工夫」「学校運営の方法」「特別支援」「通学」「施設」「地域」「周知」など、多岐にわたって、様々な課題があります。このため、今後の協議については、提案の修正・改善も含めて、時間をかけて丁寧に行ってまいります。

④今後の協議の進め方について

- ・大きな方向を決めるには細かい課題への対応の議論が必要であり、今回のアンケート結果を踏まえて、相応の時間をかけて、丁寧に話し合っていく事が重要だと考えています。
- ・小中一貫教育の推進は、新しい時代を生きる児童生徒に必要な資質・能力を育成する上で必要であると考えています。これは、市川市教育が目指す方向であり、国が示す方向でもあります。
- ・しかし、小中一貫教育をどのような学校体制で進めるのか、そのために学校施設はどうするのか、それらを具現化するために課題をどのように解決していくのか、どのようなスケジュールで進めるのか、といったことは、検討委員会の議論を踏まえて、具体化していくことが重要であると考えています。

- ・具体的には、検討委員会での協議を踏まえて事務局が案を具体化し、それをまた検討委員会で検討するといったサイクルを重ねながら、東国分中学校ブロック独自の小中一貫教育推進計画を策定します。

(2) 協議の内容 (○：委員長及び委員 ●：事務局)

※協議の内容は、意見等を出来るだけ詳しく記載し、検討委員会の様子をお伝えすることとしています。

- 塩浜学園は、小と中が隣接していたことで通学路への不安は全て解消されています。さらに両方の校庭を使うことができます。稲越小と曾谷小が東国分中に来るとなると、稲越は一番端にあり、遠い所では東国分中に来るのに30以上掛かります。低学年や体の弱い子、また台風や熱中症など、保護者が不安に思うことは大きな課題だと思います。合わせて、小学校には防災拠点があり、それぞれの学校で引き渡し訓練や防災訓練、防犯マップや防犯パトロールなどを実施しており、大きな課題だと思います。もう一つは免許状についてです。小学校の免許状を持つ者が小学校の研修を受けて自分の学校に行っています。また、中学校の教師は中高の免許状を持ちながら、中学校の研修を受けて中学校へ行っています。また、それぞれの免許状を持ちながら、さらに、市の研修や研究会、学校独自の校内研究会などで指導力を高めて、自分の学校の児童生徒を指導しています。小学校の教員が中学校の免許を持たずに、無免許で研修も受けずに指導することは不安ではないでしょうか。中学校の教員が小学校の免許状を持たないで指導することは、先生方にも教わる方にも成果はあるのでしょうか。小学校で児童理解をしながら教えることと、中学校の先生の生徒指導は大きく違います。果たして現在の教育以上の成果を発揮できるのか疑問に思います。市川市教育委員会が義務教育学校を進めるのであれば、無免許で指導することは避けるべきだと思います。ただでさえ大変なのに、負担、多忙感はぬぐえないのではないのでしょうか。
- 新しく校舎を建てるとしたら、ここに(東国分中)建てるのでしょうか。
- 決まっていません。新しい校舎を建てる場所が決まらないと、通学路なども決められないと考えています。
- 県立高校では中高一貫校が多くなっていますが、中高一貫と小中一貫のメリットは同じではないでしょうか。また、私立は一貫教育が良いと思って進めていると思います。
- アンケートを読んで、義務教育学校ができるまでの道のりが長いと感じます。今ある学校運営協議会などの組織がどうなってしまうのでしょうか。曾谷小は最初から建て直すことになっていますが、どこに最終的に一体型校舎ができるかが気になります。場所が決まらない限り問題を解決できません。市教委に建てる場所を決めてもらわなくてはならないと思います。稲越にある須和田はどうするのでしょうか。須和田の立ち位置が気になります。
- 今回の提案については、何も言うことはありません。子供たちにどのようなものが良いのかを必死に考えている姿を見ているので、提案に反対はありません。昭和55年のコミュニティースクールから始まり、東国分中ブロックは地域性が良いと思っています。だからこそ、子供も地域で育ってきました。昔から学校、家庭、地域が一緒にやってきました。学校での子供たちの様子は学校が一番よく分かっています。家庭のことは親が一番よく分かっている、外で遊んでいる子供たちのことは地域が良く分かっています。色々なところで見せる子供たちの顔は違っています。それぞれで見せる子供たちの様子を、三者で集まって持ち寄り、話し合うことが大切です。学校運営協議会は小中がバラバラで、協働本部は中学校ブロックごとになっています。これをもっと充実することが大切です。「中一ギャップを味合わせなくてはならない」という意見に私も賛成です。しかし、昔は乗り越えられる力をもった子が多くいましたが、今は乗り越えられない子も多くなってきました。そこで必要になるのが地域の力だと思います。何かあれば、近くに地域の人や、悩みを聞く人、支える人がいることが分かるだけで、乗り越えられるのではないのでしょうか。今は、相談する相手がいないので、乗り越えられずにいる子もいます。そのためにも、小中一貫校ができるのであれば、今まで以上にこの地域の結びつきを強くするための協働本部を充実させる必要があります。それぞれのコミュニティー・スクールの連携をもっと図っていきたくと思います。東国分中は安心して来られる学校になっています。昔はやんちゃな子がいたことを持ち出して「東国分中は…」と言われることがあります。解決するのは学校ではなく、地域の人だと思います。東国分中の大人に任せておけば大丈夫だという形をつくり上げることが、小中一貫校を立派な学校に、そしてより良いものにするための第一歩だと思います。だから地域がもっとまとまって、小中一貫校を応援するための動きを始めた方が良いのではないのでしょうか。

- 先日、1年生の昔遊びで稲越小に行き、給食を子供たちと一緒に食べました。縦割りのグループの5年生が、6年生のお別れ会の練習をするからと1年生を迎えに来ました。6年かけて子供たちのリーダー性が成長するのだと実感しました。先生に言われることなく、自分たちで動く姿を見て、下の子たちも上級生になったらこうなるという意識づけがされていて感動しました。それが、4-3-2制になると、どこでこのような力を発揮するのか、どうやって付けていくのかと不安に思いました。そういうところを検討して行って欲しいと思います。
- 曾谷小の建替えに準じて義務教育学校をつくらうということですが、一体型校舎での4-3-2制には不安があるので、今の既存の校舎を活かして、稲越小に1~4年生、曾谷小学校で5~7年生、東国分中学校に8~9年生など、うまく3校を使っていく考えは無いのでしょうか。一体型には一体型の良い面、分離型には分離型の良い面があると思います。
- 曾谷小には通級指導教室がありません。中国分小か大野小にしかないのですが、卒業後の東国分中にはあります。小中一貫校にしたら、通級指導教室のニーズが増えてくると思います。今も待機している児童がいます。一对一の対応が子供にとっては絶対に必要だと思います。必要性を感じているので、力を入れて欲しいと思います。
- 分離型でスタートするとありますが、PTAの組織をどうするのでしょうか。保護者側で決めなくてはならないのでしょうか。今までの形を踏襲していくのかどうか、保護者目線として不安です。分離型がいつから始まるのかが見えないのが保護者には不安です。管理職はどうなるのか、分離型でも校長、教頭がいたら、今までと何が変わるのでしょうか。先月、曾谷小学校で防災拠点の設置訓練を行いました。仮にこのままの形で行くと曾谷小が防災拠点になるのでしょうか。東国分中に防災拠点がつくられたときには、河川に挟まれた場所に避難するのは現実的にどうなのでしょう。防災拠点をどこにするのかが地域の人間としては不安です。
- PTAについては、市教委も入って話し合うなど、別の機会を作っていく必要があると思います。防災拠点については、市教委だけでできる話ではないので、防災部門等とも話し合い、案をお示していきたいと思います。
- この会議で話し合い、地域に合ったものにしていこうということによろしいのでしょうか。免許状については、研修を行うなどして対応して欲しいと思います。また、学区を編成し直す可能性があるのではないのでしょうか。または選択制で選べることもあるのでしょうか。入る段階から学区を決めて進めるのか、ある程度選択できるようにするのか、今の中学校ブロックにこだわらなくて良いということでもいいのでしょうか。塩浜学園の場合はどうなのかを知りたいです。
- 塩浜学園は学校規模が小さいため、行徳支所管内全てを対象として、自由に来られるようになっていました。東国分中ブロックについても、学校規模を踏まえながら話し合っていきたいと思います。
- 遠い所から通ってくる子供たちのことをどう考えていくのかということだと思います。防災拠点のことについては、今は家の近くにあるから安心していますが、一か所にまとまるとどうなってしまうのか、という不安の声が聞こえてくると思います。地域の力が必要であり、地域の力をこちらに向けることが課題だと思います。
- 免許状については、10年間という期間があれば、学校の先生方の能力なら免許更新等ができると考えています。河川の氾濫については、今は急な気候変動でひどい状況ですので、江戸川上流の決壊が一番心配です。海水温の上昇で東京湾からの逆流もあり得ます。防災拠点としては3つの学校とも良くはない場所です。一番良いのは中国分小の高台です。そういう面でも良いのではないのでしょうか。あるいは曾谷貝塚の高い所など。小中の授業交流を、単発ではなく定期的にして欲しいと思います。「良いお兄さんがいる」など、魅力ある学校にして欲しいと思います。となりの三中は部活ができますが、東国分中には部活がありません。水の流れと同じように、魅力のある方へと流れていきます。東国分中に良い流れが来るようにして欲しいと思います。
- 何年も前から防災拠点訓練に参加しています。最初のころは300人くらいが曾谷小に来ていましたが、今年は70人、80人でした。関心が低いのか、もう分かっていることだからということなのか。協議会では参加人数について話をして、小中高と一緒に訓練をしなくてはならないと言っています。それぞれでやっても避難はできません。中学校は調整池ができたなら大丈夫だと思っていますが、本当に訓練をするならば、覚悟をしてやる必要があります。遠くから通うことについては、昔はそうでした。私の子も小1のころから40分も50分かけて山を越えて通っていました。通学路が狭いのは学校行政ではなく、道路行政の管轄になるので、事務局から投げかけて欲しいと思います。ただ、道路自体が狭いのでどうしようもないと思います。道路の狭さについては話し合っていく必要があると思います。通学路が遠いというなら、稲越や曾谷を残すというのも一つの手だと思います。また、学級数が一つだと閉塞感があります。ずっと同じであり、影響は大きいと思います。大人数だから良いというものでもありませんが、色々な立場の子供たち、色々な考えの子供たち、色々な育ちの子供たちと交流して欲しいと思います。その点では小中一貫になることは賛成です。

- アンケートを読んで、不安に感じるが見えてきました。新しい出会いや関わりがプラスアルファになるのではないのでしょうか。地域も今までよりも広くなることを活かさないといけないと思いながら、それを活かすのは難しいと思っています。新しいことをするなら、新しい発想で何かできれば良いと思います。学校の方も柔軟な発想を受け入れるようにして欲しいと思います。花壇の話のように、これまで関わってきたことを今後も続けていき、プラスアルファをどうするか、今までの発想をガラッと変えた方が良いと思います。防災については、今まで同じようなことを行ってきましたが、避難所の作り方自体の発想を変えていかなくてはならないと思います。建てる場所が決まってからだと思います。
- 理念は素晴らしいと思います。小中の連携について考えるならば、もっと頻繁に交流をすればいいのではないのでしょうか。確かに小規模の学校では、1年生から6年生までメンバーが変わらずに閉塞感があるのは事実です。でも、来年の1年生が2学級から1学級になったのは、学区の弾力化をしているからです。適正規模というならば、今すぐ学区の弾力化はやめて欲しいと思います。小中連携のデメリットについてですが、人は、節目を乗り越えることで成長します。成長の機会を奪っていいのでしょうか。小中両方の授業を見てきましたが、中学校の先生の授業は少し荒い気がします。それは仕方がないところがあります。高校入試に向けて知識を注入しなくてはならないからです。小には小、中には中に合った学習指導の在り方があります。一部教科担任制を取り入れたから学力が上がるものではなく、誰が教えるかということで、やはり人によるものだと思います。どう考えても教員の負担が増え、中学校側の負担は増えます。ただでさえ、働かせ放題という批判を受けている状態で果たしてやっているものなののでしょうか。部活動についても、これだけの組織が一体になると、余裕を持って運動ができるスペースが無くなるはずですが、中学生がしっかりと練習をしたいのにできないとなるのではないのでしょうか。デメリットが多いので、このシステムには反対の立場をとらせてもらいます。
- 塩浜学園は市川の南全部が学区になるため、小学校1年生の児童が、電車とバスを乗り継いで来ています。12月に学校説明会を行っていますが、公立学校のイメージではなく、私立学校のイメージです。私立には学区は無く、とても広い範囲から時間と交通機関を使って来ています。魅力のある学校をつくって、遠くからでも来たいと思えるのが理想だと思います。今の塩浜学園は1年生から6年生までが単学級で、その上に7年から9年生が乗っています。しかし、7年生が3クラス、8年生が3クラス、9年生が2クラスでバランスが良くありません。この中で9年間の恩恵を受けられるのは、前期課程の単学級から上がる子だけです。もったいないと思います。1年生から9年生までがバランスの良いスタイルでいけるのが理想ではないのでしょうか。そのために、学区や通学路が心配になると思うので、スクールバスなどを検討する必要があると思います。魅力を発信し、この学校に集まりたいと思えるような手立てを考えていけるようにしたら、地域の子供たちの理想に近づくのではないかと思います。
- 卒業式が近づき、子供たちの会話から、中学校の進学をととても楽しみにしていることと、不安だと感じていることが分かります。キャリア教育の授業で、「変化の激しい社会においては、自分らしい答えを見つけていくことが大事だ」という話を講師にしてもらい、子供たちはとても勇気づけられました。中学には憧れがあり、自分の未来を色々と想像しています。そこを育めるような一貫教育をしたいと思っています。今議論していることが子供たちにとって良い方向になると良いと思います。9年間の一貫教育でこんな良いことがあるんだと、子供たちがイメージできるように、そして、そこを子供たちに分かるように伝えていくことが大事だと思います。子供と同じように、教師もまだイメージができていません。子供と一緒にイメージづくりをしてもらいたいと思います。通学や学区など色々と問題はありますが、皆さんの意見を頂きながら、良いものをつくりたいと思っています。